

札幌圏災害対策連続セミナー第1回 アンケート集計結果

日 時：平成28年10月17日（月）18:30～21:00

会 場：札幌エルプラザ公共4施設4階 大研修室

テーマ：大規模災害が発生したとき被災地では何が起こるのか

全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）代表 栗田 暢之氏

参加者数：51人

アンケートサンプル数： 29 件

主 催：環境省北海道環境パートナーシップオフィス

連続セミナー協力： NPO法人北海道NPOサポートセンター

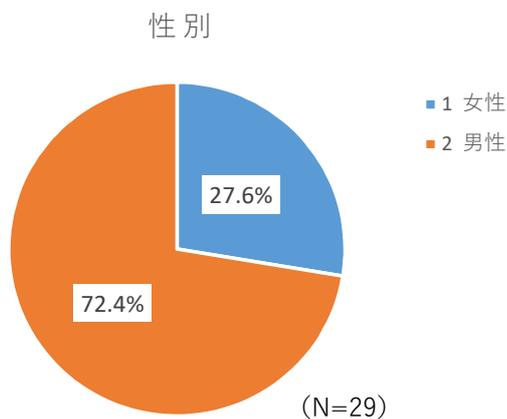
認定NPO法人北海道市民環境ネットワーク「きたネット」

【アンケート集計結果】

問1 参加者の属性

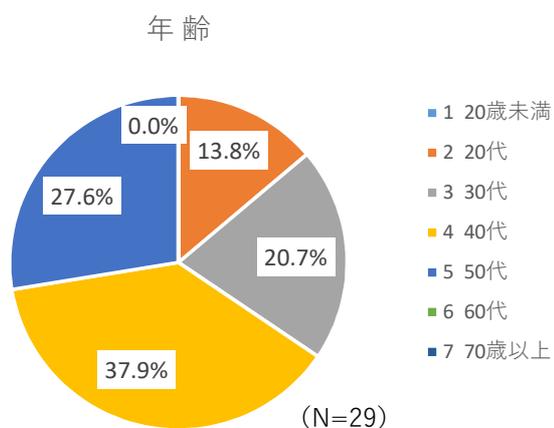
(1) 性別

		件数	割合 (%)
1	女性	8	27.6%
2	男性	21	72.4%
-	無回答	0	0.0%
	合計	29	100.0%



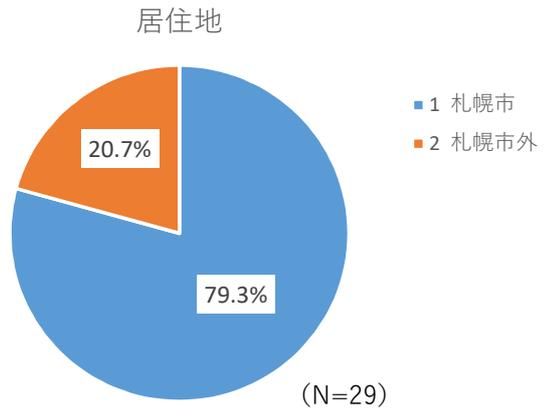
(2) 年齢

		件数	割合 (%)
1	20歳未満	0	0.0%
2	20代	4	13.8%
3	30代	6	20.7%
4	40代	11	37.9%
5	50代	8	27.6%
6	60代	0	0.0%
7	70歳以上	0	0.0%
-	無回答	0	0.0%
	合計	29	100.0%



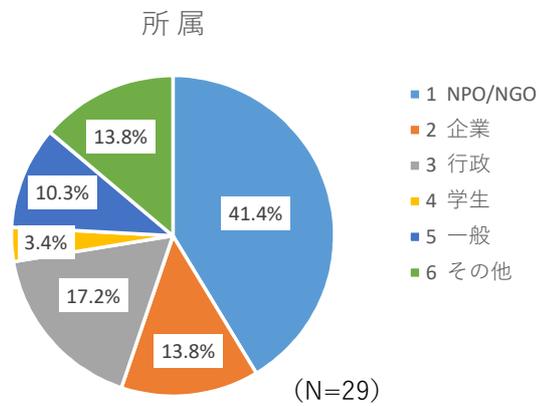
(3) 居住地

		件数	割合 (%)
1	札幌市	23	79.3%
2	札幌市外	6	20.7%
-	無回答	0	0.0%
	合計	29	100.0%



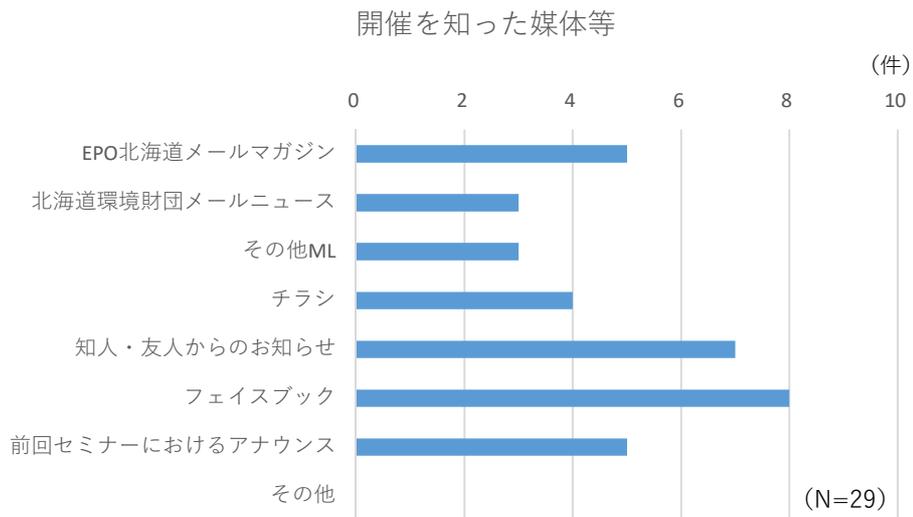
(4) 所属

		件数	割合 (%)
1	NPO/NGO	12	41.4%
2	企業	4	13.8%
3	行政	5	17.2%
4	学生	1	3.4%
5	一般	3	10.3%
6	その他	4	13.8%
-	無回答	0	0.0%
	合計	29	100.0%



問2 セミナーの開催を知った媒体等

		件数	割合 (%)
1	EPO北海道メールマガジン	5	17.2%
2	北海道環境財団メールニュース	3	10.3%
3	その他ML	3	10.3%
4	チラシ	4	13.8%
5	知人・友人からのお知らせ	7	24.1%
6	フェイスブック	8	27.6%
7	前回セミナーにおけるアナウンス	5	17.2%
8	その他	0	0.0%

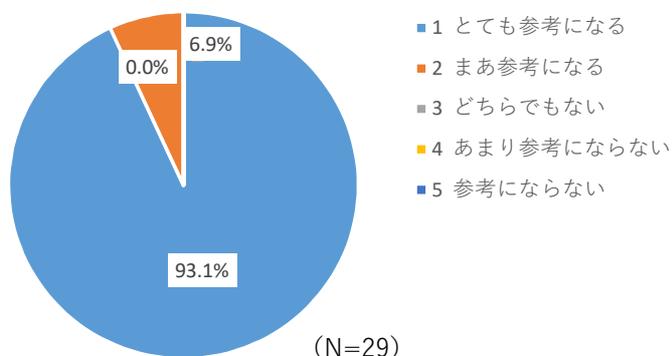


問3 連続セミナーについて

(1) 連続セミナーの感想

		件数	割合 (%)
1	とても参考になる	27	93.1%
2	まあ参考になる	2	6.9%
3	どちらでもない	0	0.0%
4	あまり参考にならない	0	0.0%
5	参考にならない	0	0.0%
6	わからない	0	0.0%
-	無回答	0	0.0%
	合計	29	100.0%

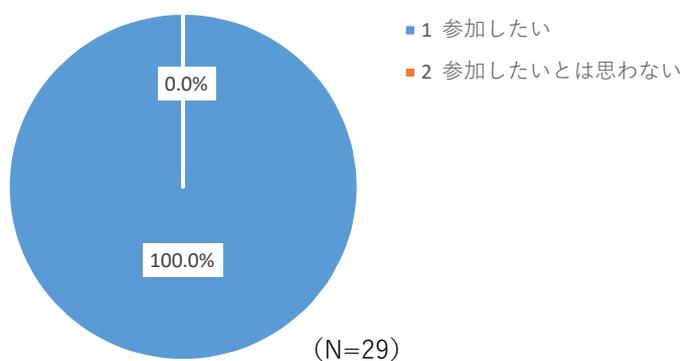
連続セミナーの感想



(2) 次回参加の意向

		件数	割合 (%)
1	参加したい	29	100.0%
2	参加したいとは思わない	0	0.0%
-	無回答	0	0.0%
	合計	29	100.0%

次回参加の意向



No.	内容	性別	年齢
1	行政の方も被災地では被災者であり、市民、住民と協働で取り組まなくちゃいけないという認識をどう広めるか、というコトの大切さをあらためて思った。いかに平時からの備えが大事か、一方平時に伝えることのむずかしさをどうのりこえていくのか、考えたいと思った。	女性	40代
2	質問している人が質問ではなく、意見を言っていたが…。どうせなら何回目かのタイミングでもグループディスカッションでもやってみては？	女性	40代
3	事例から何から情報をたくさん得られました。感謝いたします。[質問] 熊本は自治意識が高そうなのですが、あまりの災害ゆえに住民の力が発揮されなかったのか。それとも、県・市・ボランティアが働きすぎて、運営に介入しなくなった、ということなのでしょう。それとも、どここのまちであっても同じことになりそうだと、思われるのでしょうか。やはり現場におうかがいしてボランティアさせていただかなければならない、わからないなと感じました。	女性	40代
4	ボランティアセンターの運営の実際	女性	40代
5	「平等」「公平」の概念が、特に災害時には弱者への過大な負担を強いる、という状況について、打破・回避の方法の具体的事例があれば知りたい。	女性	50代
6	今回は考える機会をありがとうございました。NPOや企業が何か起きたときにどう動くべきか。そのような計画を立てる機会を持てたらと思いました。	男性	20代
7	NPO同士の連携、日頃から準備しておくことが大事だと痛感しました。	男性	30代
8	大規模災害は、台風10号の降水量は高くなって、水害や地震が大きくなったり、東日本大震災ではバンク状態でJVOADが調整に取り組んで、熊本地震でボランティアの人が手伝いに行き、住宅の移転と大混乱期に水・食料・生活物資などがあって、まとめでした。災害現場、まちづくりなど、内容は中間ぐらい色々理解が出来て、話の中身は興味を持って参考になりました。また次回も参加しますので、今後ともよろしくお願ひいたします。本日はありがとうございました。	男性	30代
9	日頃の活動や、準備、意識などといったことが、有事の際にしっかり「力」にできるようにと思いました。次回も参加したいと思います。	男性	30代
10	日々の忙しさに埋没し、風化していく、なんとかしたくても自身の気持ちをつなぎとめられない、と思っていましたが、災害支援のNPOではなくても、それぞれの専門領域でできることはある、というお話に共感しました。日々の仕事と、いざというときの備えを結び付けることが大事だと思いました。	男性	30代
11	本当に困っている人（障害者・高齢者など）への支援、対応方法についてより詳しく知りたいです。また観光・観光地という視点でどう防災するか、どう復興していくかという点をもっと知りたいと思いました。ありがとうございます。	男性	30代
12	私が思っているより被災地の現状は厳しいものだとわかりました。同情をするのはよくわかりますが、現状の理解をしなければなりません。人間は自然の力には勝てませんが、その後を変えるのは人間です。そのために準備をしなければなりません。その準備というのは、まず食料の用意、避難所での対応のための医療、福祉の知識、そして自然への地学的な理解をしなければなりません。私たちはまず理解をすること、急がず、あせらずに慎重に動かなければなりません。このような機会を与えていただきありがとうございます。	男性	30代
13	・災害時における地域住民の連携を普段からどのように教育していくかが課題だと思いました（災害の意識付け） ・避難所運営ゲームを住民一人ひとりに体験させる必要があると感じました ・栗田さんのお話ですが、ポイントがまとまっていて大変わかりやすかったです	男性	40代
14	NPOくまもとのような機能を北海道NPOサポートセンターは担えるのだろうか？NPOって北海道民の生活にどれだけなじんでいるのだろうか。被災地で信頼される人は、日赤の赤いベストを着た人や医師。NPOというものの自体の知名度やスキルを高めないといけないと思った。	男性	40代
15	現場の視点、俯瞰した目線、すばらしいお話でした。	男性	40代
16	たいへん勉強になりました。ありがとうございます。	男性	40代

No.	内容	性別	年齢
17	リアルな話を聞くことで中間支援組織、施設としてすべきことが見いだせるきっかけになります。	男性	40代
18	NGOのネットワークの初動が不十分だと感じていたので、JVOADの活動を期待します。	男性	50代
19	災害時必要なのは、ものごとなどを整理し、旗振り役をする人が必要と考える。	男性	50代
20	たいへんためになった。ありがとうございました。熱い想い、自分も共有したいと思った。自分にできることをやりたい。そのための準備をしたい。住民としてNPOとして一個人としても。	男性	50代
21	<p>相も変わらず実態は阪神淡路大震災以降からも変わっていないことに、日本の国民性がわかりました。ただし、継続して救援活動が必要です。このあたりで人間の心理（日本人の特性）を応用して、なにもしないという選択肢も必要とも考えます。</p> <p>基本：命を守る…自分自身で。 生活する…生き生き生きる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の活用…専門的知恵経験を利活用して→生きがい ・子供への実務教育…大人の正常化の偏見 ・行政の横の連携→あきらめて市民自身が行動 ・フェイルセーフの視点と思考 ・感情も必要ですが冷静に判断して→美辞麗句ではなく行動を ・倫理観、正義感の基本教育 ・女性も男性も同列で何事もできるように ・メディアの活用 <p>…課題を一つひとつ解決しましょう。</p>	男性	60代
22	災害ボランティア活動を5年間続けて、現実的に幅広い支援者活動をするためには、その分野のプロ的、ノウハウを持つ各NPO団体のネットワーク作りが必要となると考えて来ましたので、JVOADの理念に同調します。今回の10号台風による北海道災害ボラに参加して、一層のネットワーク、特に自然団体も含めての連携が必要ですね。ただ、ボラセンターにおけるボランティアの安全対策が不足していることが、最近見られることが心配です。	男性	70歳以上
23	様々なボランティア組織を「つなぐ」組織（JVOAD）の存在を知り、心強く思いました。	男性	70歳以上